

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	最近、大規模なスクリーニングによって、従来とは異なるPrPresがウシにおいて発見された。H型と呼ばれる高分子量のフランスのウシPrPres分離株を、ウシまたはヒツジのPrPを発現するトランスジェニックマウスに接種した。全てのマウスは神経学的症状を呈し、死亡し、これらの株が感染性プリオンの新規株であることが示された。この病原体は、BSE病原体およびヒツジスクレイビー病原体とは明らかに異なる特有の神経病理学的特徴を示した。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 314: 133-136	慢性消耗病 (CWD) 非感染シカをCWD陽性のシカの唾液、血液または尿・糞に曝露させた。その結果、CWDを伝播する感染性プリオンが唾液および血液中に認められた。CWDはシカ科の動物に容易に伝播すると言え、プリオン感染では体液との接触に関する注意が払われるべきである。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Vaccine (2006), doi:10.1016/j.vaccine.2006.10.058	ヒトや動物におけるTSEの多様性を解明するため、PrPresの詳細な特徴が研究されている。分子学的な方法により、最近、ヨーロッパと米国の感染牛で異常なBSE型が発見され、少なくともBSE牛の何例かには別の起源の可能性が出てきた。小型反芻動物での新しいTSE型は「非典型的スクレイビー」または「Nor98」と呼ばれ、ヨーロッパの大部分の国でTSE迅速検査で同定されている。
												BSE	FDA News: P07-04, 2007年1月11日	FDAはBSEセーフガードとして医薬品や医療機器で、特定のウシ原料を禁止することを提案した。禁止される原料は、30月齢以上のウシの脳、頭蓋骨、眼および脊髄、全てのウシの扁桃腺および小腸の一部、ヘタリウシの全ての部位、検査を合格していないウシの全ての部位などである。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2007年2月7日	2007年2月7日、CFIAはAlbertaの成年牛はBSEであると確信した。カナダにおける9項目のBSE牛である。死体は管理され、どの部位もヒト食料または動物の飼料システムに入っていない。予備的情報ではこのウシは生後1年目に少量の感染物質に暴露したと考えられる。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。